



妙たえの光ひかり

通刊43号 復刊22号

1997年12月10日(季刊)

角田山妙光寺 発行
新潟県西蒲原郡巻町
角田浜 〒953-0011
TEL 0256-77-2025

ホオジロ(メス)

妙光寺の玄関は大きい。夜と強風するとき以外はいつも開け放つてあるから、さまざまの鳥の珍客がしょつ中である。一度入るとガラス窓にぶつかって、なかなか出ていつてくれない。

この鳥も戸外でよく見かけるが、名前まではわからなかった。よく見るわけで一年中日本にいて、この地方ではヤマズメと呼ばれているそうだ。大きさもズメぐらいか。主に草原に住むが、最近海岸線にも多くなったとのこと。

普段はチチツと地鳴きしながら飛ぶが、営巣時には「一筆啓上つかまつり候」「源平つつじ白つつじ」と鳴き声が聞こえる。それが近頃は「サツポロラーメンミソラーメン」と鳴くようになったと言う人がいると、図鑑に書いてある。

切株をたつ頬白の一呼吸

堀口星眠

新しい本堂への想い

小川英爾

お願いしていました「本堂・祖師堂の建て替え」を、実行することに役員会で決定しました。回復の兆しが見えない不況と、農家収入の減少という厳しい経済環境の中で、多額の寄付のお申し出をいただき感謝の気持ちと、申し訳ないという思いでいっぱいです。

現在の本堂は焼失による応急の建物で、築二三年が経過しています。それだけに当時の人たちの苦勞が忍ばれますが、いかんせん材質が悪く、虫食いも進み、老朽化してこのままでの使用は限界です。でも歴史的な建築からくる暖かみ、安らぎ、さらに窓を開放した時に見える外の緑と自然の風景、そこから吹き込む風等々、この本堂は仏さまの存在とともに、私たちの心をとくまなく空間です。この良さを壊すのもつたいないと言う声も聞かれますし、私自身もつらい気持ちでいます。

一方で冬の冷たい隙間風、傾いて落ちてくる壁、ぬけてぶかぶかする床に雨漏りという事態です。さらに江戸時代の形式による内部の使いにくさがあります。具体的には、横長の本堂の中央が式衆（僧侶）の席で、参詣の人の席が両脇のため仏さまを正面に拝めない形です。これに不自然さを感じているのは私だけではないようです。

解体補修の案もありましたが、大半の材料が再使用できない程痛んでいます。新築となると予算と地形の制限から、通常の木造本堂ではこれまでの暖かみと安らぎ、そして仏さまと向き合う

形の全てを充たすことができません。一般の本堂の威厳あるあの形は、その分近づきがたいものになりがちです。また仏さまと向き合うための縦長の本堂は、地形的にも無理があります。

そこで現在の客殿を設計された茶谷正洋先生にご相談し、二年近くかかって今回の基本設計ができました。楕円のドーム型鉄筋コンクリートの本堂と、木造の祖師堂に渡り廊下という形です。コンクリートの耐用年数に難点がありますが、外壁の補修の継続で対応します。またコンクリートの冷たい印象を思いがちですが、内部に十二本の太い木の柱を立て、ぬくもりの感じられる空間になります。また広く大きな開口で、十分に緑の爽やかな風が吹き抜けます。周囲の緑も、新しい本堂に見合うようにもつと豊かにしようと、安穩廟を設計した野沢清先生がはりきっております。

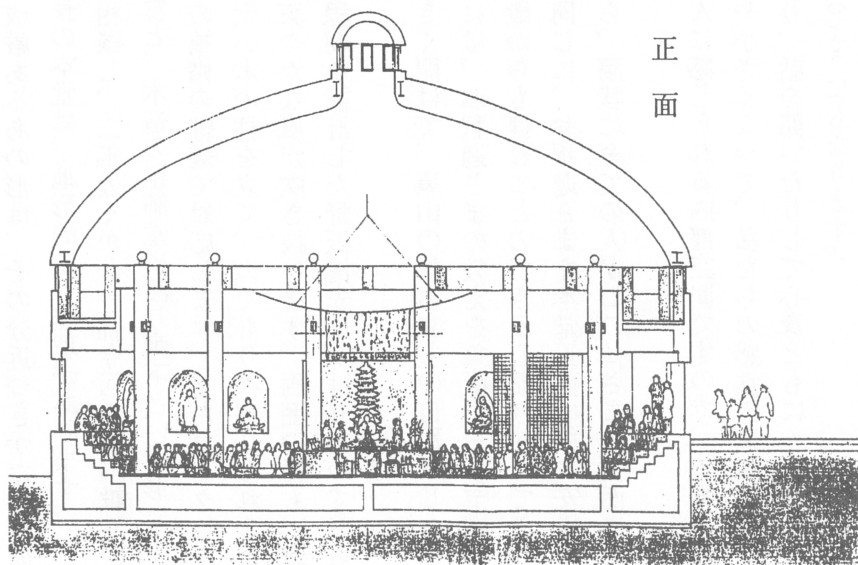
さらに正面の仏さまの後背部を特大のガラスで大きく開けて、裏山の杉木立ちの自然がじかに本堂に飛び込んできます。その外部の杉木立ちの中には、お釈迦さまの教えを象徴する多宝塔を建て、本堂の内側からはもとより、石庭や現在の客殿からも拝むことのできる心配りがしてあります。多宝塔が外に立ちますから、池上本門寺等と同じに、お釈迦さまを本堂正面中央に安置する形式にしたいと思えます。本堂内部が円形ですから、扇状に全ての人がこの仏さまを正面にお参りすることができます。

こうして周囲の自然と仏さまの安らぎが、ふんだんに感じられる内部空間ですので、装飾は簡素にしたいと思えます。本堂そのものは現在よりやや小さくなって、私たちの感覚に違和感のないものです。そして普段は椅子席にてお参りしたり、話を聞いたりして心身ともにくつろげます。特に大勢のときには床に座ることで、収容できるようにもなります。

この十月、母の四十九日忌法要で身延山にお参りしたおり、日蓮聖人ゆかりの甲府市遠光寺を初めて参拝しました。偶然にもそちらの本堂が鉄筋コンクリート造りの八角形で、お釈迦さま像を正面に、椅子でお参りする形式だったのです。あの東京タワーを設計した内藤博士が設計され、昭和四十年代に建設されたそうです。当初はとまどった檀家の方々もすぐになじんで、今は喜んでおられるとのこと。妙光寺ではさらに外部からも内部からにも、たっぷりの自然を取り入れることができます。基本的な考えがまったく同じで、こちらのご住職とすっきり話がはずみ、改めて仏縁を感じたことでした。

私の創りたいものは、本堂という建築物そのものではないのです。林も風も建物と建物の間でさえも、全てが私たちを包み込んでくれる本堂でありたいと思うのです。それこそ仏さまの世界です。本堂にたたずむと、たとえ一人でも、包まれている優しさを実感できる空間にしたい

正面

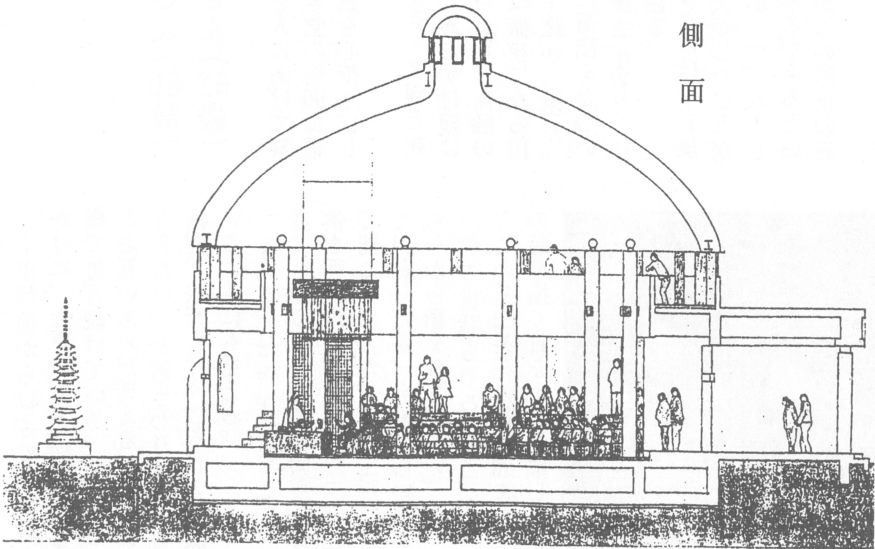


と思っております。杉木立ちの林の中にたたずむ多宝塔を背景に、仏さまがお参りする私たちを暖かく見守ってくださいませ。この自然と仏さまとの一体感の中で感じられる、心の広がりのある空間こそ、妙光寺の新しい本堂です。これを創り出したいと願っています。

本来ならこうした想いは、趣意書でお伝えすべきなのかも知れません。でもあまりに大事業で、お伝えすることでご負担をおかけすることが心苦しく、とりあえず皆さんの意向を伺うという性格の趣意書でした。それがお陰を持ちましてここまでになりましたので、遅ればせながらこの場ということです。ご理解いただければ幸いです。

こんな夢を実現できる住職は本当に幸せ者です。この世界をより広く、より多くの人たちと共に感じていきたいのです。こうした機会を与えてくれた仏祖三宝と、ご協力くださる多くの皆さんに心から感謝申し上げます。

側面



境内を花木でいっぱい

巻町松山

河村信雄さん(60歳)

ミスさん(62歳)

境内には大小併せて八十本余りの桜の木がある。その七割方は河村さんがこれまでに植えたものだ。今回新たに二十本を奉納して、十一月の小春日和のいち日、植え込み作業に汗を流した。

最初は大きくなりすぎた庭先の染井吉野を、五本移植したのがきっかけだった。次に十二年程前、初めて身延山団体参拝に参加した記念に、八重桜の苗木五十本を墓地の周囲に植え、毎年春には見事な花をつける。今回は仕事を引退したのを機に、この六月中国団体参拝に参加、その記念にと、三、五メートルのオオヤマ桜を道路脇に並木で植えた。再来年からは赤みがかった花が楽しめる。

花木が好きな河村さんは、出かけた先で苗木を買ったり自分で挿し木し

たりして、成長した木を人にあげて喜ばれている。今、鐘撞き堂の周囲に植えようと、山茶花の成長を心待ちにしている。

河村さんは生後まもなく父親と死別、行商人をして東京で暮らす母親に代わって祖父母に育てられた。高齢の祖父の代理で、ときには徹夜になる田んぼの揚水機当番に十歳から出た。「その日は荒縄で縛った蒲団をかついで行くんだが、道で同級生に会うとはずかしくて」と当時を語る。

寺への元旦の年始参りには十五歳から出て、この歳まで欠かしたことが無い。一度大雪の年があって、八人しか寺に来れなかった覚えがあるという。また梵鐘が入ってからの除夜の鐘も二十年皆勤だ。

十年程前からは寺での説教をきっかけに、岩屋の七面様へのお参りを夫婦で毎月続けている。「いつも一緒だとお互いあらが見えるから、お参りのときだけ」と言うわりには、買い物、病院、旅行とけっこう二人で出掛けているように見える。

ミスさんは声が大きく明るい元氣者でとおる。子育てが大変なころ、子供を呼ぶ声が道を隔てた二軒先の家まで聞こえたとか。漬物工場に長年勤めて退職したが、今も手伝いをあちらこちらから頼まれて忙しい。

孫の世話もそろそろ手が離れ、育てている山茶花の花に囲まれて、除夜の鐘を撞く日を楽しみにしている。





動き出した本堂工事



本堂工事を決定しました

別の印刷物と、本誌の前ページでお伝えしますように、本堂と祖師堂の建て替え工事を決定しました。集計がまとまらず、遅くなりましたことをお詫びします。

大変な時期にぶつかり、とても厳しい経済状況のなかで、二億円近いご寄付のお申し出をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

内訳は檀家二四二件、安穩会員一二二件の計三七四件。寄付予定総金額一億九千三百万円。そのうち百万円以上は檀家八七件、安穩会員三件です。

(十一月八日現在)

計画では工事費二億円、諸経費五千

万円、計二億五千万円が総予算です。

あと五千万円余り不足ですが、八割の見通しがついたことで、前向きに進めようと役員会で決定しました。無謀な決定のように受け取られるかも知れませんが、二十人で三時間以上の真剣な協議をいたしました。

そこでは不況のさなか、これだけのご協力をいただいたことを無にしたいくない。社会の混迷する時代にこそ、寺がしっかりと活動すべきだといふ一致した思いがあります。しかし、現実には工事費の低減と、寄付金の増加という希望的観測にもとづいた決定であることも事実です。

ただこれは取り返しのない見きり発車の決定ではありません。最

終決定となる工事契約の段階までは、二年間の余裕があります。その間、寄付金の増額を中心に、対応策を進める方針です。別紙でお知らせのようにも一割必要です。どうぞ引き続きご理解、ご協力お願いいたします。

妙光寺の現状と今後の課題

本堂工事の決定を前に、妙光寺の運営上の課題を役員会の席上確認しました。ここに概略お知らせします。

・ 経済不況、檀家の高齢化と世代交代で近い将来経営的に困難な状況が懸念される。・ 今年度から宗教法人法が変わり、財産の明確化と会計報告等が義務づけられ、事務作業が大変煩雑になる。・ こうした雑務に住職が追われて、本来の宗教活動に支障がでてい。参詣者の高齢化、減少傾向が顕著。・ 世話方だから負担が多いことの問題。・ 目先の問題に土地取得と山側墓地の整理、その他懸案事項が多い。

これらをふまえて、今後維持管理費の縮小、運営と経理の体制作り、行事とお手伝いの形の見直し、役員選任方法の検討等を考えていきます。

お会式法要

十一月十六日に、日蓮聖人の七百十六回忌法要を営みました。ご命日は十月十三日ですが、妙光寺ではいいお話が聞けるように、お話下さる方の都合に合わせて日取りを決めています。

今年には東京の釈迦本寺住職、権藤泰隆上人をお招きして、お題目修業の実際と効果についてお話いただきました。「正座にこだわらないが姿勢を正し、空気を一杯吸って腹の底からお題目を唱える。そのご利益は心身の健康と、人への思いやり」とのお話に、五十人の方が熱心に聞きっていました。

これまで、石川泰道千葉誕生寺貫主、市川智康池上本門寺布教部長、赤堀正明現代宗教研究所主任、入船亭船橋

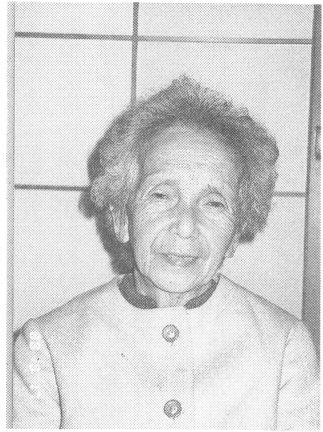


(落語家) 獅子てんや(漫才) 青木新門(作家) 等の方々をお招きしました。

小川たまの死去

先代住職の妻で現住職の母小川たまが、八八歳で去る九月二十一日に死去しました。数年前より老人健康保険施設に入退院の生活で、このたびも九月十日に退院、病気はないものの寺で寝たきりの状態で過ごしていました。その後次第に食が細くなり、同日夜「ありがとう」の言葉を介護する住職の妻に残し、静かに息を引き取りました。

小川たまは明治四三年生まれ。東京品川で育ち、高等女学校を卒業後、立正大学の日曜学校に関わったことで先代住職と出会い、昭和七年に結婚して妙光寺に來ました。当時は電気もなく、畑作業も当然の暮らしたったそうです。戦時中は保育所の運営、戦後は婦人会活動等に関与しました。二男三女があり、現住職は二男です。長い間お世話になりました皆様に、当人に代わりお礼申し上げます。



葬儀は長男小川陽一と住職の二人が喪主となって営みました。ご参列いただいた方、お心つかいいただいた方にお礼と、混乱にとりまざれ応対が不十分だったことをお詫び申し上げます。

安穩廟三基目完成

春から工事中だった三基目が八月に完成、既に五十件の申し込みがあります。これに合わせて一部植栽もしました。また「信心」のページで紹介した河村さんが、道路との境に桜二十本を植えて下さいました。

全体の整備が進みましたが、行政による国土調査が不備で敷地に大きな問題がありました。解決までに檀家総代、区長、役場、家屋調査士等多大な尽力をいただきました。さらに今後は四基目の計画用地に水路敷が公園上あって、この払い下げ申請と代替水路の改修工事が課題です。

その他花便り

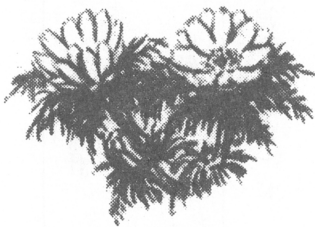
境内には今、先代住職が植えた枝垂れ桜が二本あって、四月初めに見事な花をつけます。このたび「紅枝垂れ桜」三本を、西川町下山の石山太郎左エ門さんが奉納されました。駐車場の一角に植えましたので、数年で楽しめるようになります。

菊花の季節の十一月、昨年に続いて巻町の内藤清さんが、丹精込めた五鉢十五本を玄闕に飾って下さいました。訪れる人たちの感嘆の声が聞こえていました。

「毎日新聞」の連載

近頃永代供養墓を作るのが全国の寺や霊園で大流行です。その先駆けとして妙光寺はとて有名になってしまいました。この「安穩廟」とそれを支える妙光寺の話を、十月から毎日新聞日曜版に住職が毎週書いています。『安穩住職の寺おこし心おこし』というタイトルです。

九州と名古屋地区以外の全国で、なんと一年間続ける予定です。継続できれば出版の話もきていますが、先のこととはとてもわかりません。



妙光寺史話

日寿上人著

「臨時得意・年中行事」(一)

○表紙に

享和壬戌仲冬 角田山常什

臨時得意 記録草案

年中行事

日寿識

妙光寺古文書に三十五世日寿上人

直筆の「臨時得意・年中行事」がある。

僅か二十一ページの冊子だが後の住職

が座右に置いて常に参考にしていたよ

うだ。表紙の左下の角が磨れて薄くな

っているのは何百回となくページをめ

くったからであろう。

冊子の最終ページに執筆した目的

が次のように記されている。

「右旧記等の類も無いので、時に是好

(弟子か)と相談の上、実施してきた

ことの概略を記し、後任住職の参考に

供するものである。これは草案であつ

て新しく帳面をつくり清書すれば万代

不易の記録になるだろう。

しかし、余は老衰し病弱のために

清書することが出来ない。……」。

日寿上人が記録し終わったのが、

享和二年十一月十七日(一八〇二)翌

年に相州(神奈川)三浦の大明寺へ御

入山になられた。

角田山妙光寺は数年ごとに住職が

交替していた時代、日寿上人も新しく

入山された時には、寺役を勤めるにあ

たつて困ったことが多くあつたのであ

ろう。後任住職が寺役を円滑に進める

のに困惑しないようにとの意図で執筆

されたのが本冊子である。

ページによつては朱書がある。こ

れは四十四世日義上人による追加の記

録である。数回にわたつてご紹介いた

します。

○表紙の裏(後年追加したもの)に

〔当村船持〕

・大越氏

・治左衛門(組頭) ・治兵衛

・惣助 (組頭) ・七右衛門

・八兵衛 (惣代) ・平左衛門

・与左衛門 ・権兵衛

・所左衛門 ・徳兵衛

・彦左衛門 ・兵左衛門

・新左衛門 ・清左衛門

(朱書で)

「予の代より船新造の者があつたら祝

儀として酒二升とソウメン二わ贈る

ように定めた。

安政二年(一八五五)卯三月

四十四世 日義 誌」

※角田浜で漁船を持っているのは、田畑、山林等の土地も所有し、経済的に豊かな家であり、村の自治の面でも力のある支配層であった。寺としても祝意を表し、礼を失しないよう留意したのであろう。願正寺の「年中故事」にも同じようなことが記されている。

◎本文

本文は大きく二つにわけられる。

- (1)惣別得意之條々……一〜四ページ
 - (2)年中行事……五〜二十一ページ
- となっている。

〔惣別得意之條々〕

※徳に留意しなければならぬこと
一、本山継目式之事

※住職が本山京都本圀寺で住職就任の辞令をもらう時のこと。

- 金 百疋 立像尊
- 同三百疋 山主
- 同二百疋 役僧中
- 銀二両八匁六分 宿坊玉昌院
- 同二匁宛 三包 方文近習中
- 錢百文宛二包 行者兩人

六口メ 金壹両二歩

銀十四匁六分

錢二百文也

右の通りにて山主が、こしらえおろしの五條袈裟を下し賜わる習慣である。この袈裟は一代のうち着用する。免許の御書付申請するのは日寿代より始まる。その書付等は遠藤氏家に預けておく。

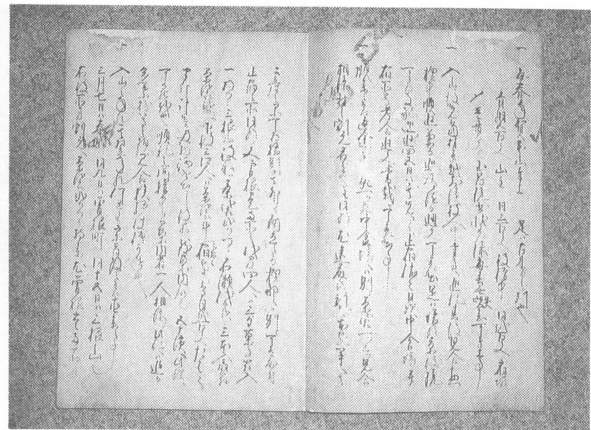
※新しく住職に就任するにあたって本山(本圀寺)へ申請書を提出すること。献上の金品を贈ること。

五條袈裟を賜わるとあるが、実際は購入したものであろう。

二、毎春、本山へ年賀として奉上。

是は古来よりの例也

- 青銅 五百文 山主
- 同 三百文 役僧中
- 同 三百文 宿坊
- メ一貫文 玉昌院へ書状差添え
- 毎春失念なく奉上すべきこと。
- 三、新しく住職に就任したら
- 先ず当村ならびに越前浜役人中、



寺方へ巡礼。其後見合わせ惣檀中へ順廻する。事前に廻る順にしたがつて文書をまわしておく。順廻する四〜五日は行った先で宿泊する。日昼食場所、宿泊所等考えて、事前に文書を廻しておくこと。

(石田誠太郎)

三基目とフェスティバル

恒例になりましたフェスティバル安穩が第八回をかぞえて、八月二二・二三日に開われました。今回は映画監督の鈴木正順氏が講師の予定で、できれば奥様も一緒に監督も楽しみにしておられました。ところがその奥様が二日前に急逝され、急遽監督のご配慮で親友の木村威夫監督（七十）がおいでになりました。

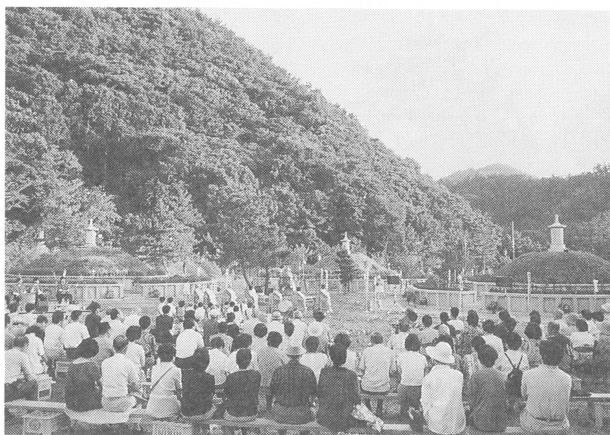
木村監督は鈴木監督とも長年コンビを組み、日本を代表する映画の美術監督で、美術監督協会の会長です。テーマを「仏縁」にして、監督のこれま

での数奇な人生と宗教観を淡々と語られました。このお人柄も加わって、まったく予想外な展開に「とても感激した」という声が多く聞かれました。会場に一種不思議な空気が漂ったようです。今年も昨年同様に会場の参加者から多く発言していただきました。

安穩廟三基目が完成して配置がすっかり変わり、法要も広場で山の方向を眺めながらのゆったりしたもの。ことに南米ペルーからの音楽は、沈む夕日、吹く風、読経の声に見事にマッチして心ときほぐす場になりました。



夜はエチゴビールのパブを貸し切りで九十人のパーティー。ここでもペルー音楽のにぎやかな演奏に、踊りの輪が大きくできました。泊まりは定着しつつある岩室温泉。翌日は



現在安穩廟を着工目前の大分市からの参加者七人を交え、意見交換しました。これまでと違うのが、今回から安穩会員の中で近くで都合のつく方六人が、事務局スタッフに入ったことです。

皆さん檀家、僧侶、他のスタッフとすつかり入り混じって楽しく過ごしました。さらに関わりも強くなることと思います。今後お手伝いいただける方がありましたらお申し出下さい。

三基目が完成、ケヤキ、モミジ、タブ等の植栽もして、全体の景観が見違えるようになりました。さらに檀家の河村さんがオオヤマ桜を二十本、会員の坂田さんが同じ桜の大きな木を、佐藤さんがすみれを植えてくれました。春が楽しみです。今後、蛍の住む流れ、水屋、あずま屋を計画しています。

本堂工事にご協力お申し出いただいた方、なかにはすでにご入金いただいた方もあり、本当にありがとうございます。ご送金方法は別紙の通りですので、宜しく願います。

お知らせしていますように、前向



きに動きだしましたが、まだまだ厳しい状況です。もう二千万円が目標ですが、誠心誠意お願いで心苦しいのです。これも一件がもう一口か二口です。もしも可能でしたら、さら

なるお力添えいただければありがたいのですが。

安穩廟も八年が経ち高齢化した会員の方の中に、遠方で足が遠のくという声がありました。そこでとりあえず



関東地区の集い、ミニフェスティバル安穩をこの十一月に鎌倉で開くつもりでした。ところが住職の母の葬儀他で計画が立てられず、止むなく来春に延期します。決まりしだいみなさんにご案内します。楽しみにお待ち下さい。

安穩廟ご契約の際、白い紙に印刷した「妙光寺霊園安穩廟永代使用承諾証」をお渡ししてあります。これに問題は無いのですが、新たに冊子形式にして作り直しました。

まだお渡ししていない三ノ廟以外の方に同封しました。ご自分の区画番号等に記入間違いがないか、お手数でも確認下さい。これは厳重保管のうえ、納骨と使用名義人変更のときに提出願います。合せて同封の「まいういるのおと」は附録です。



「年末を迎えて」



いろいろなことがあるのがあたりまえで、それもしかたない。と人生を達観せざるをえないような一年でした。

夏の三カ月のあいだに、祖母、従兄弟の奥さん、そして姑を亡くしました。父と夫の涙に母という存在の重みを感じ、葬儀の時には涙を見せなかつたという従兄弟の三人の子供の深い悲しみを思いました。

大手の金融機関の倒産が相次いでいます。まさか、と思いましたが、でも次々とはつきりしてゆくその原因に、この社会の不思議、狂気を感じます。今日のオカズ代は二千元、明日は財布を開けないようにがんばろう！なんていうやりくりをみんなしているはずな

のに会社の仕事となると、感覚が麻痺してしまうのでしょうか。

この世の中に確かなものなんてありませんね。お金も人の命も無くなる時は無くなってしまう。とても悲観的にならざるをえないのに、かえって潔くしつかりと生きていこうと思ったりしています。どこか心の深い部分で生きるためのよりどころのような感覚を持ちながら、あとは流れにまかせて、何がおきても立ち上がれるように。

ある苦しさのために
重い心をかかえながら
暮らしていた日々
いつかしら そんなことは
ポツと忘れてしまつて

今
すがすがしく 力のみなざる
私にここに

あと少しで今年も終わろうとしています。本堂前の銀杏が今年も豊作で除夜の晩に皆様にさしあげられると思います。いつもいつもお寺のために、そして私たちのために、親身になり温かい気持ちでお付き合ひ下さったことに、感謝をしながら銀杏の実を洗いました。

とは言うものの、なにせ数が多いものですから、たつぷりとはいきませんが、お正月の酒の肴に召し上がってください。十個くらいなら、そのまま紙袋に入れて電子レンジで五十秒位、ポンポンと音がしたら出来上がりです。

来年もしっかりと地面を踏み締めていこうせつ！つてかんじ。どうぞ元気でお正月をお迎え下さいませように。

小川なぎさ

行事案内

お札配り

十二月に入り来年の「お札」を持って、暮れのお経に各家に伺っています。住職と鎌田で手分けして回りますので、どちらかが伺います。

もしご希望の日時がありましたら、早めにお知らせください。できるだけ対応します。

大晦日 除夜の鐘

大晦日夜十時半より本堂で除夜法の鐘を撞きます。どなたでも先着順に一回づつ撞いてもらいます。撞いた方には記念品と、抽選で楽しい縁起物の景品が当たります。温かいコンニャクもあります。

境内は投光機でライトアップされ、とても賑やかです。檀家以外にも地元の人や、遠く豊栄市、新発田市、燕市等からも来られます。年々出足が早くなっていますので、十一時半には並ん

でないと百八以内に入れないかも知れません。

同時に本堂前でお焚き上げをします。同時に本堂前でお焚き上げをします。古いお札、注連等お持ち下さい。その火で焼くスルメイカは各自どうぞ。

毎年この時間帯に車が集中して、出入り口付近で混雑します。運転者、歩行者ともに十分ご注意下さい。

元旦 年始参り

元日の朝九時から午後四時頃まで、年始参りの受付をしています。住職個人は喪中ですが、妙光寺はいつも通りです。住職のご挨拶もいつも通りですし、不幸のあったお宅も同様に寺へのお参りは変わりません。

一年の始まりは妙光寺本堂の仏様参拝から始めましょう。おでかけ下さい。平成十年に法事の当たるお宅は、祖師堂に貼り出してあります。確認のうえ、日取りをご相談下さい。

一年の家の安全、健康、幸運を祈願する「星祭り」は、一件二千円です。新規の方は家族全員の名前と生年を書いて、年内にお申込下さい。家族ごとにお札をお渡しします。

あ・と・き
が・き



九月早々から母の容体が悪く、葬儀と続き九月の号を休んでしまいました。半年ぶりで報告ばかりの内容ですみません。

不景気のせいか寺も暇で、その分じっくりと寺務仕事と原稿書きに専念しています。家族全員元気です。来年もさらに厳しい年になると一般にいわれますが、せめて健康で過ごしましょう。紙数の都合で、寺の自然を休みます。よいお年をお迎え下さい。

(小川)